

部 長	福 嶋 淳 代
研究主任	江 口 司
部 員 数	28名

## 1 研究主題

本は友達  
～授業で生み出す本とのつながり～

## 2 はじめに

本研究会では、これまで、学校図書館を「読書センター」としての機能だけではなく、「学習センター」や「情報センター」としても活用していくために、図書館や本をどのように利用していくのかに焦点を当てて研究を進めてきた。昨年度は、授業での本の活用、図書委員会を中心とした取組の両面から実践を行ったが、図書委員会の取組だけでは、参加する児童生徒に限られること、期間が限られているため一過性になってしまうことが課題として見えてきた。そこで、今年度は、「本は友達～授業で生み出す本とのつながり～」を研究主題とし、教員が日々の授業の中で図書を活用し、全ての児童生徒が本に関わる機会を作り出すことで、児童生徒に本への親しみをもたせ、本とのつながりを形成していくことができるのではないかと考え、研究を進めた。

## 3 研究経過

全体会と学年別部会の2部構成で会をもち、研究を進めた。学年別の部会は基本的に部員の担当学年で分け、小学校で3つの部会、中学校で1つの部会の合計4部会を設定した。

- 5月 研究組織・研究テーマ・研究計画・実践報告時期や内容の決定
- 6月 実践報告に向けた準備
- 7月 教員がおすすめする本についての情報交換
- 9月 山口陽子先生による研修会
- 10月 実践報告（1回目）
- 11月 実践報告（2回目）
- 12月 小牧市中央図書館の見学
- 2月 今年度の研究のまとめ

## 4 研究の概要

### （1）全体会

9月には、山口陽子先生を講師として招き、「読み聞かせと耳からの読書」についての講演をしていただき、子どもたちと本をつなぐきっかけづくりの方法や、本の魅力を伝える手段について学んだ。さらに、12月には、小牧市中央図書館の見学会を実施し、職員の方から説明を受けながら館内を見学することにより、施設の魅力を肌で感じることもできた。

これらの貴重な経験を、各校における今後の読書活動の推進に生かすことができるようにしていきたい。

## (2) 学年別部会

児童生徒に本を好きになってもらうためには、まず教員が本を好きになる必要があると考え、各教員がおすすめる本を持ち寄って紹介し合った。また、授業の中で、どのように本を活用することができるのかを話し合い、各校で実践を行った。各校の実践報告を通して、授業の中での本の様々な活用方法を知ることができ、今後の実践の幅や可能性が広がった。

(実践例)

- ・ 児童がおすすめる本のポップを作って展示する
- ・ ALT に外国語の本の読み聞かせをしてもらい、外国語版と日本語翻訳版のちがいを考える
- ・ ビブリオバトルを実施する
- ・ 授業の初めに、一分間の読み聞かせを毎回行う
- ・ 本の中に出てくるカタカナを探し、カタカナがどのくらい使われているのかを調べる
- ・ 国語の授業で扱った題材の作者が書いた本を、学年のフロアに配置し、いつでも読めるようにする

## 5 今後の課題

授業の中での本の活用を通して、児童生徒全員に本と関わる機会を作り出すことができた一方で、授業の中だけの活用に留まり、児童生徒に読書習慣をつけさせるまでには至らなかった。今回の取組を一過性のものにせず、繰り返し授業の中で本を活用し続けていくことが、児童生徒の読書習慣形成につながっていくのではないかと考えている。

また、GIGA スクール構想により一人一台のタブレット端末が導入され、電子書籍の利用やオンラインでの蔵書検索などデジタル面で手軽に本と関わるできるようになり、今後、ますますICT機器の活用が広がることが予想される。本研究会では、ICT機器の効果的な活用を模索しつつ、実際に図書館を利用する場面を大切にし、図書資料のもつ魅力を再認識できるように、研究を進めていきたい。さらに、市立図書館や学校図書館司書との連携を図り、本のもつ本質的な魅力を感じさせながら、より主体的に本と関わる児童生徒の育成を目指していきたい。